A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術　共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	児童劇

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分

複数申請の状況(該当するものを選択してください。)　※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)
※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	ゆうげんがいしゃにんぎょうげきだんきょうげい 有限会社人形劇団京芸	団体ウェブサイトURL http://www.kyougei.com/	
代表者職・氏名	取締役　清水正年		
制作団体所在地	〒 611-0022	最寄り駅(バス停)	白川峠(バス停)
	京都府宇治市白川鍋倉山35-20		
電話番号	0774-21-4080		
ふりがな 公演団体名	にんぎょうげきだんきょうげい 人形劇団京芸	団体ウェブサイトURL http://www.kyougei.com/	
代表者職・氏名	取締役　清水正年		
公演団体所在地	〒 611-0022	最寄り駅(バス停)	白川峠(バス停)
	京都府宇治市白川鍋倉山35-20		
制作団体　設立年月	1949年10月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	【取締役】清水正年 【運営委員長】坂下智宏 【事務局長】長谷川友香 【会計監査】白米美帆/藤田博子	(1)団体構成員:演技部13名/制作部1名/総務部2名/嘱託劇団員2名/嘱託3名 計21名 (2)加入条件等:劇団の研究所を卒業した者、または、卒業と同等の能力を有すると認められた者	
事務体制 事務(制作)専任担当者の有無	他の業務と兼任の担当者を置く	本事業担当者名	菅沼輝之
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	山本育子
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	office@kyougei.com		

<table>
<tr><td>制作団体沿革</td><td colspan="3">昭和24年10月に劇団京都芸術劇場として創立される。
昭和35年に新劇部門と人形劇部門とが分離・独立し、人形劇部門が人形劇団京芸として活動を始める。
昭和42年に法人格を取得、有限会社人形劇団京芸となる。
昭和47年に宇治市白川に稽古場を開設して活動の拠点とし、以後、全国の小学校、幼稚園・保育園、行政、鑑賞団体等で人形劇の上演を実施している。
平成9年の『モモ』により、人形劇団として始めて文化庁芸術祭優秀賞を受賞する。
平成27年には『おもしろげきじょう』が厚生労働省社会保障審議会児童福祉文化賞特別推薦作品となり、また、国際児童青少年舞台芸術協会(ASSITEJ)韓国支部の第23回国際夏フェスティバル招待作品となる。
令和3年には韓国ウニマ主催による動画コンクールにおいて映像作品がBest賞に選出される。</td></tr>
<tr><td>学校等における公演実績</td><td colspan="3">創立当初(昭和24年)より学校公演実績あり。

令和4年度(2022年4月1日~2023年3月31日)は

『とどろヶ淵のメッケ』22ステージ
『火よう日のごちそうはひきがえる』31 ステージ
『まんてんげきじょう』9ステージ
『のほほんカーニバル』1 ステージ（支援学校）
『エコシアターあおぞらげきじょう』1ステージ

の、計64ステージを実施。</td></tr>
<tr><td>特別支援学校等における公演実績</td><td colspan="3">京都府立聾学校/京都府立盲学校小学部/京都府立舞鶴養護学校/大阪市生野区特別支援学校/八尾市立特別支援学校/みくまの支援学校/滋賀県立草津養護学校小学部/綾部市特別支援教育研究会等での公演実績あり。
また、平成26年度本事業において三重県立聾学校、27年度は兵庫県立姫路しらさぎ特別支援学校/神戸聴覚特別支援学校、平成28年度は広島県立庄原特別支援学校、平成29年度は長崎県立鶴南特別支援学校、令和元年度は熊本県立天草支援学校で実施。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">参考資料の有無</td><td>申請する演目のWEB公開資料</td><td colspan="2">有</td></tr>
<tr><td>※公開資料有の場合URL</td><td colspan="2">https://youtu.be/l0LzxEXQcFA</td></tr>
<tr><td rowspan="2">※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</td><td>ID:</td><td></td></tr>
<tr><td>PW:</td><td></td></tr>
</table>

公演・ワークショップの内容　【公演団体名　人形劇団京芸　】

対象		
	小学生(低学年)	○
	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○
	中学生	-

企画名	人形劇団京芸『とどろヶ淵のメッケ』―本当の友情を見つける冒険―
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	『とどろヶ淵のメッケ』―本当の友情を見つける冒険― 【　原　作　】富安陽子『とどろヶ淵のメッケ』(佼成出版社刊) 【　脚色・演出　】北村直樹(人形芝居ひつじのカンパニー) 【　美　術　】清水正年 【　音　楽　】ノノヤママナコ(マナコ・プロジェクト) 【　照　明　】尾鷲武志 【　人形製作　】人形劇団京芸 【舞台装置製作】吉田貴志(ヨシダ人形劇)・人形劇団京芸 【　制　作　】山本いずみ 公演時間　80　分

著作権、上演権利等の許諾状況				
各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否		該当あり	該当コンテンツ名	人形劇の上演
該当事項がある場合	権利者名	原作使用料:富安陽子 原作イラスト:広瀬弦	許諾確認状況	使用(上演)許諾取付済

演目概要	【あらすじ】 カッパの子どもたち、メッケ・ソッカ・ヨッシャの3人が、川の水が涸れてしまった原因を突き止めるため水分岳(みくまりだけ)の上流にある竜神沼へ向かいます。興味の矛先も得意なこともバラバラな3人ですが、それぞれの力が噛み合ったとき思いもよらぬ力を発揮します。恐ろしい山の掟を知ったメッケは水を取り戻すため山の生け贄となり、掟によって仲間のカッパたちは皆メッケを忘れてしまいます。ソッカとヨッシャはすんでのところでメッケのことを思い出し、メッケを取り戻そうとします。果たしてメッケを取り戻すことはできるでしょうか。 【みどころ・セールスポイント】 『とどろヶ淵のメッケ』は沼や淵など水の中が舞台の人形劇です。照明や音響そして舞台装置で水の表情が一刻一刻変化する中、登場人物たちが自由に泳ぎ回り行動する様子は観る人の想像力を刺激します。 またメッケ・ソッカ・ヨッシャの3人は自分の好きなことへの思いが強すぎてひとりで行動していましたが、3人が出会ったことでその力をみんなのために発揮できるようになりました。いろんな子が集まる学校生活を送っている子どもたちに、自分と周りの人の特性や得意分野を受け入れることがみんなを活かし輝かせることを感じてもらいたいと思い上演しています。
演目選択理由	演劇は文学・音楽・美術・舞踊が一体となって世界を作り上げる芸術です。その中でも、人形劇は人形によって観る人の想像力を積極的に刺激し、幼児から大人まで、幅広い年齢層の心を動かします。 『とどろヶ淵のメッケ』は大きな人形、象徴的な舞台美術、そして登場人物一人一人の内面を大事にして表現する演出が結びつき、異年齢の集団が一緒に見られる質の高い舞台となっています。知らないところへ出かけていき新しい体験を仲間とする物語は、児童・生徒を刺激するばかりでなく、一緒に目標を達成することの大切さを提示し、それに向けてのコミュニケーション能力を育てます。 また、カッパという想像上の生き物が人形で表現されることで、登場人物に自分自身や気持ちを仮託して観劇する児童・生徒の想像力はより解放されます。 さらに、多様な芸術の要素を含んだ人形劇を観ることは、様々な文化に触れる機会となるので、後後まで続く文化芸術のへ関心を持つことができます。水をテーマにした人形劇ですから、環境問題についての啓発にもつながります。
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	児童・生徒は上演冒頭の場面に出演します。 学校全体を物語の舞台、水分岳(みくまりだけ)にある「(学校名)ヶ淵」として、児童はそこに住むカッパを演じます。山頂の竜神沼で催される大相撲大会に出場する淵の代表者として登場し、仲間のカッパたちに"しこふみ"や"つっぱり"を披露します。優勝を祈願して踊りながら竜神沼へ向かって出発します。 併せて先生も1名出演し、児童の先導役をします。先生が一緒に出演することで出演児童も安心して演技ができるようになります。 カッパの人形は事前のワークショップで作成したものを使用します。自身で作った人形を遣うことでどのように人形を動かすか、カッパとしてどのような演技ができるかといった発想がより豊かになります。また客席で鑑賞する全校の児童も「(学校名)ヶ淵の仲間」と設定することで会場の一体感を生み出すとともに出演児童ののびのびとした演技を引き出します。 上演後には人形でのお見送り体験や、出演した人形とのふれあい、舞台見学など、実施校の希望を聞きながらの人形劇体験を実施しています。
出演者	小島祥子/清水正年/菅沼輝之/白米美帆/藤田博子/西尾直樹/割地泰淳

本公演従事予定者数(1公演あたり)※ドライバー等訪問する業者人数含む		運搬	
出演者:　7　名		積載量:　2　t	
スタッフ:　1　名		車　長:　6.5　m	
合　計:　8　名		台　数:　1　台	

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	8時	8時～11時30分(3時間30分)	13時30分～14時50分	なし	15時30分～18時 (2時間半)	18時
	※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。					

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月
	10日	0日	0日	0日	19日
	11月	12月	1月	計	29日
	0日	0日	0日		
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。				

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	30人
		鑑賞人数目安	450人

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)

(図1)体育館フロアに舞台を設置して
上演している状態。
舞台に必要な面積は
間口14m×奥行8m×高さ4m。

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。

(図2)児童がワークショップで作った
人形で上演参加している状態。

【公演団体名　人形劇団京芸　】

児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	30名（1クラス～1学年）
ワークショップ実施形態及び内容	本公演で児童はカッパの役として出演をします。そのための人形作りと人形劇体験のワークショップを実施します。 ワークショップは実施校の授業時間数で2コマ（途中休憩あり）で行います。 前半では、まず始めに簡単なレクリエーションで心と体を解放し、児童間や講師とのコミュニケーションが取りやすい状態を作ります。続いてカッパの人形をひとり1体作ります。人形は新聞紙やゴミ袋など身近な材料を用いています。児童それぞれで目や模様など自由に描くことができます。 休憩を挟み、後半ではそれぞれの作った人形を遣って人形劇を体験します。 「見る」「歩く」など人形操作の基本を学ぶとともに、自由な発想で人形を動かす体験をします。 また本公演の出演につながる相撲の動作と、音楽に合わせてダンスを練習します。児童が互いに見合うことで相手の動き方を取り入れたり、別の表現を思いつくきっかけを作ります。 （図）児童が自ら作ったカッパ人形の一部。新聞紙やビニールのゴミ袋などを用いています。		
ワークショップのねらい	ワークショップでは、児童が初めての人形劇体験を楽しめること、自らの想像を表現できるようにすることを重視しています。 講師は人形の作り方や遣い方について基本的な技術を指導しますが、児童が発想したアイディアは積極的に取り入れ、活用していきます。これによって児童自身が一緒に人形劇を作っているという感覚を持ち、自ら想像力を働かせることや表現することを楽しみ、好きになってもらいたいと考えています。 人形を介して表現することは少し難しく感じるかもしれませんが、どう見えるか・どう見せたいかを考えることは客観性と広い視野を育みます。さらに複数人で舞台に立ち表現することで、他の児童との距離感や目配せ、動きの気配を読むなど非言語の身体的コミュニケーション能力も養うことができます。 またその人形を児童が自らの手で作ることで自身の人形の役、設定などを深く考えるきっかけにもなり、より愛着を持って演じることができます。		
その他ワークショップに関する特記事項等	特別支援学校等でも特に変更なく実施できます。 個々の特別支援学校の持つ期待や要求に応えられるよう、ワークショップの前段階から密に連絡を取ります。より良いワークショップと本公演が実施できるよう、今までの特別支援学校での実績を活かします。		

本事業への申請理由　【公演団体名　人形劇団京芸　】

本事業に対する取り組み姿勢、および効果的かつ円滑に実施するための工夫	**①本事業に対する取り組み姿勢** 本事業は地域的な利便性、学校規模による予算など様々な理由により鑑賞行事が叶わない学校へ舞台芸術体験を届け、子どもたちと舞台芸術を出会わせられる非常に意義のある事業と考えています。本作品は舞台や人形が大きく、小規模校から大規模校まで幅広く対応できます。また照明・音響効果、舞台演出の質が高いので児童・生徒の年齢や舞台劇を観た経験の多寡によらず物語を楽しむことができます。 本作品稼働以前に『ウォートンとカラスのコンテスト』で平成24年、平成26年から令和元年まで本事業を実施してきた実績と経験を活かし、ワークショップ形態、本公演での参加形態を考え、より良い鑑賞・体験行事をお届けできるようブラッシュアップを重ねています。令和2年度から5年度まで新型コロナウィルス感染症の対策を取りつつ実施してきました。コロナ禍が一定の収束を迎えた今、より多くの児童・生徒の皆さんに人形劇を体験していただけるよう、令和6年度は本公演の出演可能人数を増やし、ワークショップ参加者が全員出演できる体制を作りました。一人でも多くの子どもたちに人形劇を届け、その子どもたちの将来にわたっての芸術への興味関心を持つことへの礎となることを願い、今年度も本事業へ申請いたします。 **②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫** 事業を効果的かつ円滑に実施する基本的な原則は、実施校との意思疎通を密に行なうことにあると考えます。平成24年度と平成26年度以降これまで様々な地域で本事業を実施してまいりました。その実績と経験を元に、以下に挙げる工夫をします。 1．本事業で実施校が期待している効果を知る 本事業を通して実施校の先生方が児童・生徒に何が必要とお考えになっているかをうかがうことにあります。例えば、学芸会での声の出し方を学びたい、引っ込みがちな学年なので自信を持たせてあげたい、などの多様なニーズにワークショップ・本公演を通して応えられるようにサポートします。また、舞台裏見学や写真撮影など実施校からの要望にも可能な限り対応していきます。 2．初めての実施校とは特に密に関係を作る 初めての実施校の実務的な不安点や疑問点を的確にサポートして解決し、次年度以降も本事業への取り組みに興味を持っていただくようにします。「ぜひこの事業を続けて来年度も児童・生徒に本物の舞台芸術を見せたい」という声を数多くいただいています。 3.フィードバックを確実に受け取る ワークショップ・本公演のそれぞれについて、学校の先生や児童からヒアリングをし、同時にアンケートを取ります。ワークショップ・公演ともにルーティンに陥ることを防ぎ、事業の円滑な実施に活かします。